

| | | | | | |
|---|------------------|--|------------------------------|----------|--|
| 平成 24 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス | | | | | |
| 教科目名 | 建設マネジメント | 担当教員 | 馬場久志 (非常勤) | | |
| 学年学科 | 5年 環境都市工学科 | 前期 | 選択 | 1 単位(学修) | |
| 学習・教育目標 | (D-2 社会技術系) 100% | | JABEE 基準 1 (1): (d) | | |
| 授業の目標と期待される効果： 建設事業全般を俯瞰的な把握、分析に基づいて技術の改善及び合理的なプロセスによる安全性の確保や外部環境負荷の低減などを実施することが求められています。そのため、コスト低減、工程管理、品質管理に限らず安全、情報など管理技術の習得を行う。 ① 人的資源管理の基本を理解する。 ② 労働安全管理を理解する。 ③ 施工計画の立案 ④ 工程管理を理解する。 ⑤ 情報管理の基本を理解する。 ⑥ 環境管理の基本を理解する。 | | 成績評価の方法： 総得点250点＝平常試験100点＋期末試験100点＋課題提出50点 とし、総得点率 (%) によって成績評価を行う。 達成度評価の基準： 教科書演習問題と同レベルの問題を試験で出題し、6割以上の正答レベルまで達していること。成績評価への重みは均等である。 ① 人的資源管理に関する知識をほぼ正確に (6割以上) 有する ② 労働安全管理に関する知識をほぼ正確に (6割以上) 有する ③ 施工計画の基本事項についてほぼ正確に (6割以上) 解ける ④ 工程管理の基本事項についてほぼ正確に (6割以上) 説明できる ⑤ 環境管理、情報管理の基本事項に関する知識をほぼ正確に (6割以上) 有する | | | |
| 授業の進め方とアドバイス： 授業は、教科書と PPT を中心に行うので、各自学習ノートを充実させること。 また、労働関係法や情報管理など幅広いマネジメント技術についても学習するので予習しておくこと。 | | | | | |
| 教科書および参考書：「建設マネジメント」 (コロナ社) (馬場敬三 著) を教科書として用いるとともに必要に応じて資料・プリントを配付 | | | | | |
| 授業の概要と予定：前期 | | | 教室外学修 | | |
| 第 1 回：建設マネジメントの概説 | | | 建設マネジメントの全体像、施工計画立案について理解する。 | | |
| 第 2 回：建設マネジメントの必要性 | | | | | |
| 第 3 回：人的資源管理 (組織論) | | | 人的資源管理の関連知識について演習または、まとめを行う | | |
| 第 4 回：人的資源管理 (労務、人事) | | | | | |
| 第 5 回：リスク管理と危機管理 | | | | | |
| 第 6 回：労働関係法 | | | 労働法に基づく労働安全衛生管理についてまとめを行う。 | | |
| 第 7 回：労働安全衛生管理 | | | | | |
| 第 8 回：中間試験 | | | | | |
| 第 9 回：施工計画 | | | 施工計画、工程管理など基本知識の取得を図る。 | | |
| 第 10 回：工程管理 | | | | | |
| 第 11 回：品質管理 | | | 品質管理、情報管理について演習または、まとめを行う | | |
| 第 12 回：情報管理 | | | | | |
| 第 13 回：社会環境管理 1 | | | 社会環境管理等の関連知識について演習を行う | | |
| 第 14 回：社会環境管理 2 | | | | | |
| 第 15 回：入札制度 | | | | | |
| 第 16 回：期末試験 | | | — | | |
| 第 17 回：フォローアップ (期末試験答案返却、解説など) | | | — | | |